幼兒の手技について

久門嘉祐

子供は先天的に創造創作といふ傾向を有して居ます。此の内的刺戟から何かものをこしらへるといふことを非常に好むものであります。否寧ろそれが子供の生活であります。從つて幼稚園に手技の大切といふことは申すまでもないことであります。乍併それがどう大切であるといふことを縱斷的に引つつかむといふことは、これはなか〳〵容易ならんことであります。けれども毎日實際保育にたづさわつて居る我々は、何とか努力研究して其の眞價を味ふまでにいきたいと思ふのであります。

一、手技と觀察

幼稚園に觀察といふ科目を新設されたといふことは誠に慶賀の至りであります。實に我國幼兒教育の一大進歩と言はねばならぬのであります。而して此の結構な保育種目を毎日の保育にどう實行するかといふことについては始めてのことではあり、文部當局からも別に具体的方法を授けられないのでありますから、各園工夫を要するのであります。何か特別な方法をもつて觀察を短刀直入に訓練するのも一方法でありますが、又毎日の保育上に觀察といふことを忘れてはならぬと思ふのであります。全体子供といふものは生れ落ちると順次光を見、音を聞き、物を探り、物を見、物を

取扱ひ、物に對して活動を起して行くのであります。如上觀察は子供の發達につれて自然に行はるゝものであります。子供の發達と觀察とは決して離るゝべからざる水と魚との關係になることは否定を許さぬところであります。否寧ろ極言すれば觀察が絶對になかつたならば子供は決して育つものではないのであります。已に觀察が子供の發達であると言ひ得るのであります。子供の發達を指導するといふ目的の每日の保育に當つて先生の頭が觀察といふことに確つかりと落着いて居るのと否とでは其保育の價値に於て雲泥の差を生ずるといふのであります。一例を擧げて見ますと、幼兒に繪をかゝせようとするに當りて其結果にのみ執着して構圖とか描方とかを指導するといふのみに走つたならば、遂に其子供の繪は形式に捕はれた繪になつてもう自然の繪をかくことの出來ぬといふ不幸に陷るのであります。それが子供の繪を指導するに當つてのみでなく日頃物をよく見て尙其物に對して興味を有つといふ風に指導して行く、こうして自然に幼兒の心に繪を生ひ立たせ其心を指を介して紙上に表現せしむるので玆に尊い幼兒の繪が出來るのであります。以上幼兒の繪についての一例でありますが、幼兒の生活萬般に亙つて觀察が基調となつてゐなければ本當の活動にはならぬのであります。

さて觀察といふものは大體目耳から入るのでありますが、全體人間の目耳は非常に輕便に見開が出來るところからつい粗漏に陷り易いのであります。只見た聞いたといふだけでは觀察といふことは出來ぬのであります。觀察といふのは外界の物を心に接せしむるのであります。又心を物に突つ込むのであります。卽ち心に觀せ心に聽かせ心に味はせるのであります。故に觀察といふのは目或は耳に依るのみではないのであります。少くとも

身體外部に表はれて居る部分はこれ觀察機關であります。殊に指先は其の最も重要なものであります。指頭は非常に神經が鋭敏で、手に觸はつたことはすぐ其儘で心に通じ、又心の働きはすぐに手先に表現されるものであります。實に心と指先は直通であります。卽ち盲人は指先に觸つて物を知るのであります。曾て盲學校の先生に此の學校では靴の始末に嘸々お困りであらうと絶大な同情を向けました處、先生は案外平氣で、いや其の事ならば御心配無用盲人は一寸手が觸はれば自分の靴と人の靴とはすぐに直覺する。如何に混雜に脫ぎ捨てあつてもすぐに自分の靴を搜し出す、目明のやうな粗漏はないからなアハハハ、此の處一寸目明眼色なしといふことになつてしまひました。佛敎の方では五指の先には佛菩薩の住し給ふといひ又指先は卽ち心眼なりともいひます。盲人は卽ち心眼で物を觀るのであります。卽ち手觸るといふことは觀察卽心に觀せる、心を外的に表現せしむる尤も大事なことであります。卽ち幼兒の手技の嚴密なる意義はこゝにあると思ふのであります。從つて幼兒の心の發達の程度、性格趣味といふやうな物細密なことが手枝になつて來るのであります これは手技手藝に磨かれた先生の心は鏡には明確に寫るのであります。故にこれに依つて少くとも日々の保育に豊かな確實な方針を得るといふことになるのであります。そしてこれから出た保育は卽ち先生が子供を觀察しての上でありますから同情愛情が基となつた溫いまことに優美な而して其の各幼兒の現在現在に、ぴつたりとくつゝいた保育法がもう自然に出來ると思ふのであります。幼兒に直接させる手技の研究も必要でありますが、又傍先生が充分手技の材能を獲得するといふことも刻下の急務であらうと思ふのであります。

（つゞく）